

長篠・設楽原戦図

天正三年(一五七五)五月二十一日未明
織田・徳川軍、武田軍の配陣

● 設楽原歴史資料館 ▲ 長篠城址史跡保存館



設楽原歴史資料館

長篠城址史跡保存館

天下を目指した
若武者たちの夢の跡

日本百名城
～長篠城～

日本一の火縄銃
～設楽原～

当時の将士年令

武田軍	織田軍	徳川軍	籠城軍
武田 勝頼 30	織田 信長 42	徳川 家康 33	奥平 貞昌 21
馬場 信房 61	織田 信忠 19	松平 信康 17	奥平 勝正 40
内藤 昌豊 54	織田 信雄 18	酒井 忠次 49	鳥居 勝商 36
武田 信實 52	柴田 勝家 54	本多 重次 47	松平 景忠 35
横田 綱松 51	滝川 一益 51	大久保忠世 44	生田 勝重 26
山県 昌景 47	佐久間信盛 48	設楽 貞通 42	山崎 信宗 25
真田 信綱 39	丹羽 長秀 41	大久保忠佐 39	奥平 定次 24
三枝 守友 39	池田 恒興 40	奥平 貞能 39	奥平 勝吉 22
小山田信茂 37	佐々 成政 40	松平 伊忠 39	奥平 貞友 21
穴山 信君 35	羽柴 秀吉 39	菅沼 定盈 33	松平 伊昌 16
真田 昌輝 33	前田 利家 38	本多 忠勝 28	
土屋 昌次 32	山内 一豊 31	榊原 康政 28	

長篠・設楽原の戦い

武田信玄の跡を継いだ勝頼は天正3年(1575)5月、15,000人の軍を率いて長篠城を囲んだ。城主奥平貞昌(後の信昌)は500人の城兵と共にこれをよく防ぎ、また、鳥居強右衛門等の決死の働きでもちこたえた。織田・徳川連合軍38,000人は設楽原に進撃し、連吾川に沿って馬防柵を築いた。当時最強と謳われた武田軍は、織田・徳川連合軍の放つ多くの火縄銃の前に敗れ、名だたる名将勇士を失った。

この戦いによって、武田氏の勢力は大きく衰退し、織田氏の勢力は絶対的なものとなった。まさに戦国の流れを大きく変える戦いと言える戦いであった。

長篠城址史跡保存館



展示室案内図

血染めの陣太鼓 ▶



◀ 鳥居強右衛門

〒441-1634 愛知県新城市長篠字市場22-1
TEL&FAX 0536-32-0162
E-mail hri-hozonkan@city.shinshiro.lg.jp

JR 飯田線 / 長篠城駅下車徒歩 8 分
東名高速道路 / 豊川 I.C. より 19km
新東名高速道路 / 新城 I.C. より 3km

設楽原歴史資料館



展示室案内図

▲ 入口



▲ 信玄砲

◀ 馬防柵

〒441-1305 愛知県新城市竹広字信玄原552
TEL&FAX 0536-22-0673
E-mail shitara@city.shinshiro.lg.jp

JR 飯田線 / 三河東郷駅下車徒歩 15 分
東名高速道路 / 豊川 I.C. より 16km
新東名高速道路 / 新城 I.C. より 2km



案内図



最新の情報はこちらでどうぞ！
Facebookページにつながります



設楽原歴史資料館
<https://www.facebook.com/shm1575>



長篠城址史跡保存館
<https://www.facebook.com/nagashino1575>

◆ 開館時間 / 午前 9 時～午後 5 時
(入館は午後 4 時 30 分まで)

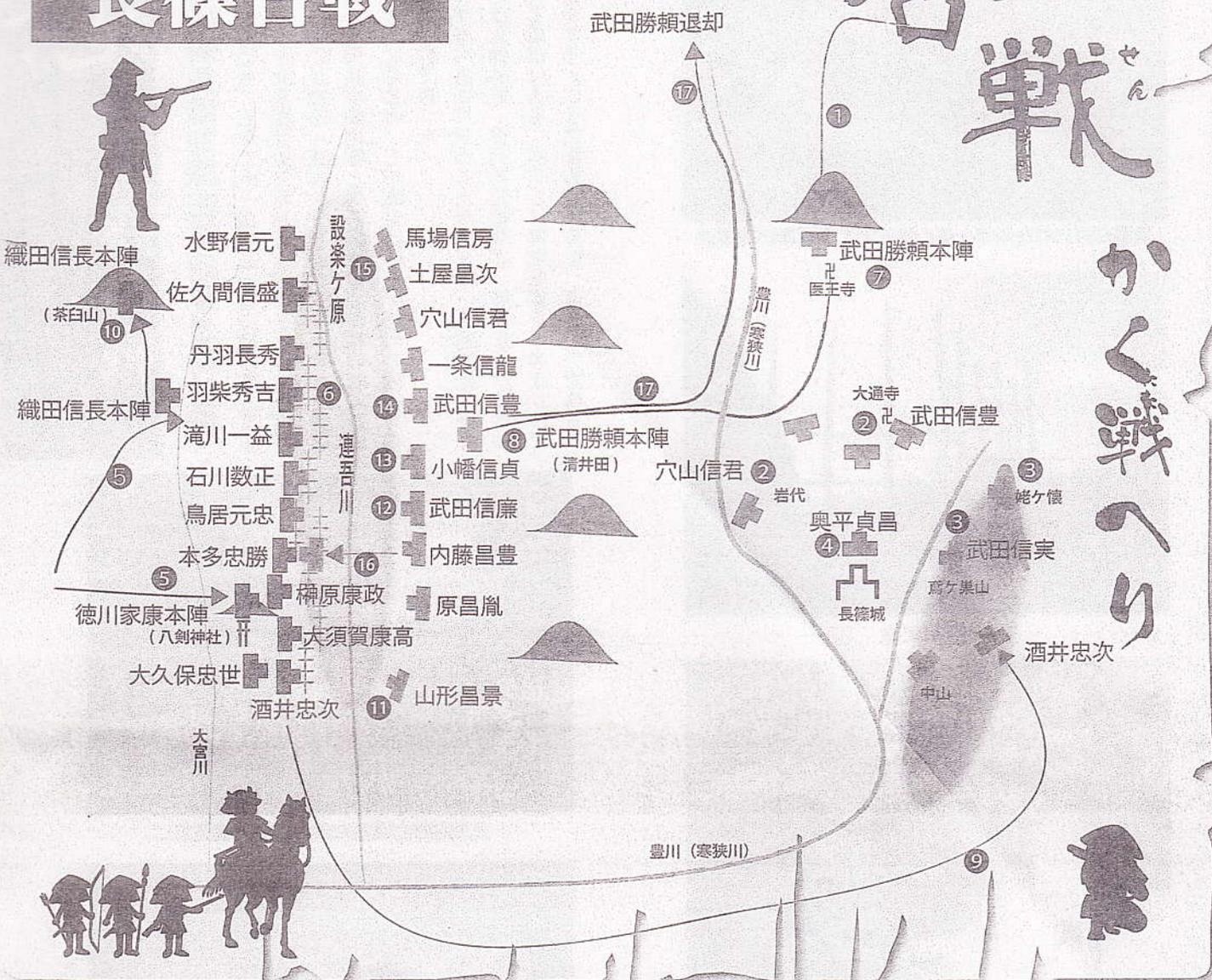
◆ 休 館 日 / 毎週火曜日・年末年始
(火曜日が休日の場合は次の平日が休館)

入 館 料	個 人		団体 (20名以上)		会員券
	一 般	小 中	一 般	小 中	
長篠城址史跡保存館	210	100	160	50	1,500
設楽原歴史資料館	300	100	200	50	
両 館 共 通 券	400	150	300	80	

ながしの 長篠合戦

合戦

かく戦へり



長篠合戦

- ① 天正三年（一五七五）四月五日武田勝頼は一万五千の兵を率いて甲府を出立し、長篠城奪還を目指して奥三河に進攻した。
- ② 五月一日、本營を医王寺に置き、兵五千を配し、大通寺には武田信豊（信玄の弟）真田信綱らが布陣。
- ③ 豊川を隔てた鷲ヶ巣山に武田信実ら二五〇人の兵、姥ヶ懐に三枝守友三五〇余人の兵を配して長篠城を包囲した。
- ④ 徳川家康は、長篠城を弱冠二十一歳の奥平貞昌以下五百名の兵で守備をまかせていた。家康は信長に援軍を要請していたが、信長は石山本願寺や三好康長らと対峙して援軍を送る余裕がなかった。勝頼もその事情を良く理解していた。しかし貞昌の抵抗は意外に強固であった。そうこうするうちに信長は三好一派を撃退し、五月十三日、度重なる家康の要請に応じて、岐阜を発ち岡崎城を目指した。
- ⑤ 五月十八日織田・徳川連合軍三万八千は長篠城南西およそ三キロの設楽ヶ原に進軍してきた。
- ⑥ 織田・徳川連合軍はそこに留まり、二十日までにかの有名な馬防柵を設楽ヶ原を流れる連吾川にそって南北二キロにわたって築いたのである。
- ⑦ 織田・徳川連合軍が設楽ヶ原に陣を築いたことを知った武田軍は軍議を開き、決戦をしようかどうかを諮った。信玄以来の重臣は決戦を回避しよう勝頼に進言したが、勝頼の近習たちは決戦を主張、勝頼はその意見を取り入れたという。
- ⑧ 二十日勝頼は決戦と決まるや、有利な陣を作るためにすぐに本陣を設楽ヶ原の清井田に移した。
- ⑨ 一方、徳川軍の酒井忠次隊などが長篠城を見下ろす鷲ヶ巣山などの峰々に陣を張る武田軍に奇襲をかけるべく兵を進め、夜が明けるのを待って一斉に攻撃をかけ、壊滅させた。
- ⑩ 信長も勝頼が設楽ヶ原に出てきたことを知ると、茶臼山に本陣を移動させた。
- ⑪ 二十一日早朝、武田軍は最左翼に布陣した山縣昌景を先鋒に突撃を開始した。山縣隊の赤備えの甲冑隊が馬防柵目指して突進を繰り返した。
- ⑫ 二番手は中央の武田信廉（信玄の弟）と内藤昌豊らが突撃。
- ⑬ 三番手は小幡信貞の赤備え軍団が馬防柵へ突入。
- ⑭ 四番手は黒備えの武田信豊（信玄の甥）が、
- ⑮ 五番手は最右翼の馬場信房が突撃して攻撃を繰り返した。
- ⑯ 武田軍で織田・徳川の陣にもっとも深く切り込んだのは内藤昌豊の部隊であったが、織田・徳川軍はなんとか猛攻をしのぎ、逆に馬防柵からでて、武田軍を追撃、
- ⑰ 午後二時をまわる頃に武田軍は退却のホラ貝を吹いて、豊川沿いに撤退を開始した。

合戦地 史跡巡り 武田勝頼 VS 織田信長

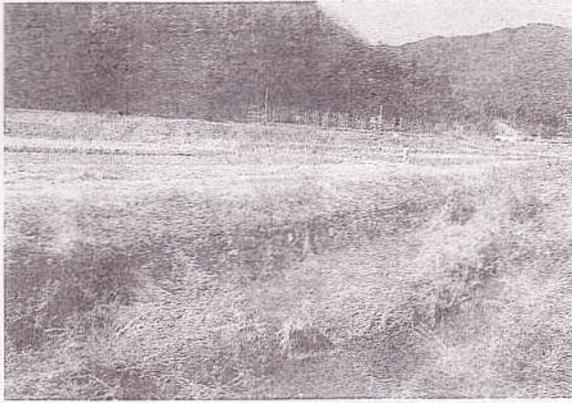
長篠合戦

織田信長
徳川家康

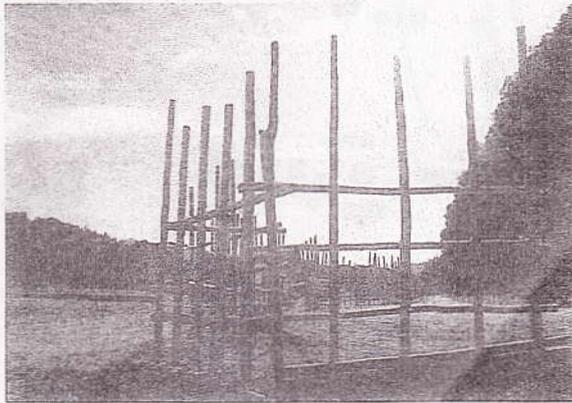
最強武田騎馬隊対織田鉄砲隊と馬防柵

天正三年（一五七五）五月二十一日織田・徳川連合軍と武田軍の雌雄を決する一大決戦が奥三河長篠城周辺で壮絶に繰り広げられた。この戦いが織田・徳川を打ち倒す好機と考えた武田勝頼であったが、信長の鉄砲隊と馬防柵設置の作戦の前に果敢に挑戦するも敗北に終わる。この戦いは新しい時代の戦い方の到来を体現したものであった。

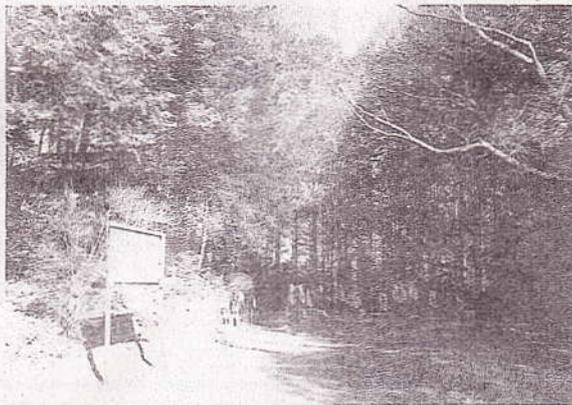
その中跡は現在も各所に見ることができる、長篠城跡史跡保存館や設楽原歴史資料館、復元馬防柵など、時間をかけてゆっくりと見て廻る価値はある。峰や丘に陣地を築き、命をかけて戦い、勝負を決するという武将の生き方に、運命の見定め方を強く感じる。



決戦が行われた設楽ヶ原の連吾川と復元馬防柵遠望



復元馬防柵



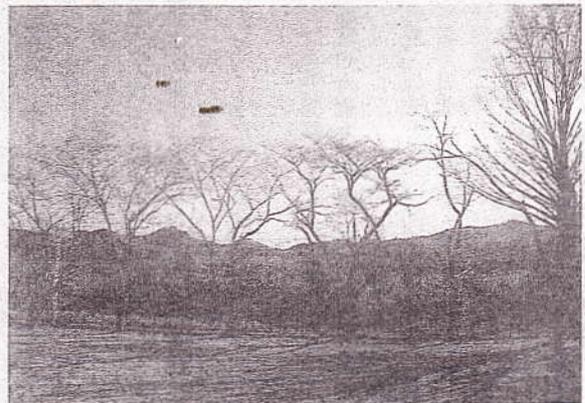
織田信長が本陣を置いた茶白山山頂



武田勝頼が最初に陣を置いた医王寺



長篠城跡城内



長篠城を見下ろす鶯ヶ巣山などの峰々

古戦場と旅するのために

ACCESS MAP

- 長篠城跡（長篠城跡史跡保存館）
愛知県新城市長篠字市場 22-1
☎ 0536-32-0162
- 新城市設楽原歴史資料館
愛知県新城市竹広字信玄原 552
☎ 0536-22-0673





長篠の戦い

天正3年5月、武田信玄の子勝頼は、勢力を東海地方へのぼすため1万5千を率いて長篠城を囲んだ。

時の城主奥平貞昌は城兵5百でこれに対峙した。

5月8日以降、武田軍は激しい攻撃をかけ、ことに13日夜から14日にかけての総攻撃は激しく、城兵はよく応戦した。しかし城中には4、5日分の食糧が残っているのみとなり、落城は目前に迫った。

貞昌はこの危急打開すべく軍議をひらき、家康への救援要請の使者として鳥居強右衛門を立てた。5月14日、強右衛門は夜半に乗じて野牛門から川に入り、鳴子網を切って急流を下り広瀬に上陸。家康に落城の危機を告げ援軍を請うた。使命を果たした後、城に入ろうとして捕えられ16日夕刻に磔となった。

20日武田軍は長篠城の押さえに3千の兵を残し、織田、徳川連合軍の堅陣、設楽原に向かって進撃した。

◆ながしのじょうし 長篠城址

豊川(寒狭川)と支流宇連川との合流点を背にして、扇形に開いた面積約10haが、天正3年長篠の戦い当時の城の規模であった。現在、史跡の大部分は耕地や宅地になっている。

そのうち重要部分3.5haは、国の指定史跡になり矢沢とよぶ小沢が北方から流れて、豊川に落ち込んでいる。この矢沢より西側に、弾正郭、家老屋敷があり矢沢の東から南にかけて、倉屋敷、帯郭、本丸、野牛郭、巴城郭、瓢郭など6郭があり一つの城が矢沢によって二つに分かれていた。

豊川と宇連川は深い谷をつかっており、それに矢沢も加わって、自然の防御線となり、人工の内堀と土塁とともに本丸を囲んでいる。その外側に外堀と土塁があった。現在内堀と土塁の大部分、外堀の一部、弾正郭の土塁の大部分が残っている。外堀の北側にあった倉屋敷、巴城郭、瓢郭などの境界は、現在では明確でない。

大手門跡、搦手門跡は明らかであるが、これを結ぶ防御の設備にどのようなものがあつたかも明らかでない。弾正郭は土塁をめぐらしているが、その大半は往時のままの姿である。



▲城址を見渡す「渡合」

長篠城址の周辺

◆いおうじやま 医王寺山

長篠の戦いで、武田勝頼の本陣となった、この山からは長篠城址を一望出来る。麓に医王寺があり、伝説の片葉のアシが茂る弥陀の池がある。

◆てんじんやま 天神山

医王寺山の南に続く小山である。一篠信竜、真田信綱・真田昌輝兄弟、土屋昌次などの陣地があつた。

◆だいつうじ 大通寺山

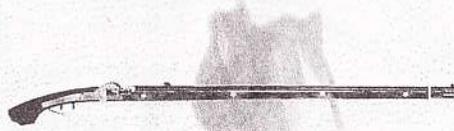
長篠城址の北端に接している。武田信豊・馬場信房・小山田昌行などの陣地があつた。寺の裏にある盃井と呼ぶ泉があり、長篠の戦いの折、武田方の馬場信房・山県昌景・内藤昌豊・土屋昌次が、この泉の水を汲んで別れの水盃を交わしたと言う。

◆いわしろ 岩代

内藤昌豊・小幡信貞の陣地があつた。ここに殿戦をつとめた馬場信房の墓がある。

◆しのばの 篠場野

豊川を隔てた長篠城址の対岸を篠場野といい、この方面に山県昌景・高坂昌澄などの陣地があつた。現在、鳥居強右衛門磔死の碑があり、近くの稲場新昌寺には鳥居強右衛門の墓がある。



◆どあい 渡合

豊川と宇連川が合流する所を渡合という。渡合から深い淵(牛淵)となり、牛淵に続いて長走りの瀬がある。武田軍は城兵が脱出するのを防ぐために、長走りに近い所へ鳴子の網を張った。

◆のりもと 乗本の砦

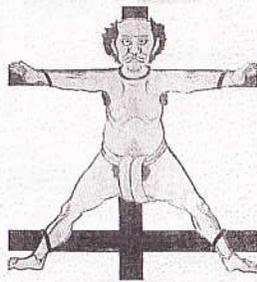
宇連川を隔てた長篠城址の対岸弓張山脈の山裾に、鷲が巢山をはじめ五つの砦があつた。東から君が臥床、姥が懐、鷲が巢山、久間山の順にあつて、鷲が巢山を守っていたのは、信玄の弟武田信実らであつた。

◆伝説「片葉の葦」

長篠の戦いで、勝頼は多くの武将のいさめも聞かず一気に勝負を決めようと設楽原に駒を進めることにした。

前夜勝頼がやっと眠りにつきかけたとき、枕元に白髪老人が音もなく立っていた。そして、勝頼がはっとして起き上がろうとするのを手で制した老人は、「明日の戦いは不利じゃ、無謀な戦いはやめて帰れ。もし目覚めなければ今日限り汝を見限るであろう。」といった。勝頼は烈火のごとく怒り、枕元に置いてあつた太刀で、抜く手も見せず老人の肩口に切り付けた。すると老人の姿はずっと見えなくなりました。翌朝、弥陀の池の葦の葉がすべて片葉になっていたという。この話を伝え聞いた人々は、その老人は葦の精だったのだらうと噂したという。

歴史を歩いてみませんか!



▲強右衛門磔刑図

戦国時代 今日は何の日

新 暦	旧 暦	出来ごと
6月26日	5月8日 天正3年(1575)	長篠の戦い 開戦
6月28日	5月10日 天正3年(1575)	長篠の戦い 武田軍 大手門攻撃
6月29日	5月11日 天正3年(1575)	長篠の戦い 武田軍 渡合より野牛門に攻撃
6月30日	5月12日 天正3年(1575)	長篠の戦い 武田軍 本丸西隅より地道を堀り侵入を試みる
7月1日	5月13日 天正3年(1575)	織田信長 岐阜を立つ
7月2日	5月14日 天正3年(1575)	武田軍 総攻撃 鳥居強右衛門脱出 織田信長岡崎に到着
7月3日	5月15日 天正3年(1575)	鳥居強右衛門 織田信長・徳川家康に拝謁
7月4日	5月16日 天正3年(1575)	鳥居強右衛門 武田軍に捕まる
7月5日	5月17日 天正3年(1575)	鳥居強右衛門 篠場野にて磔殺される
7月6日	5月18日 天正3年(1575)	織田信長 設楽原に到着、布陣
7月7日	5月19日 天正3年(1575)	武田勝頼 医王寺山の軍議において進撃を決める
7月8日	5月20日 天正3年(1575)	武田勝頼 豊川(寒狭川)を渡り清井田付近に陣取る
7月9日	5月21日 天正3年(1575)	酒井忠次隊が鷲ヶ巣山奇襲
		長篠の戦い 設楽原決戦 武田軍大敗